



過酷な競技だからこそ、最後に大逆転があり得る。そこが魅力です。



わきもとしげゆき

脇本繁幸さん（福釜町・35歳）

今年6月に行われたデュアスロン日本選手権での好成績により、スイス世界選手権（8月）に出場。

水泳、自転車、ランのトライアスロンと違い、ラン、自転車、もう一度ランで行われるのがデュアスロンです。わたしがなぜ、デュアスロンにチャレンジするのかといえば、単純に水泳があまり得意ではないからです（笑）。学生時代は長距離をやっていたのですが、県大会に出るのが精一杯。趣味で自転車に乗っていたので、いつしか、自然にこの競技に入っていました。過酷な競技ではあるんですが、よっぽど好きなんですよ。仕事があると

きでも、朝5時に起きて三ヶ根山まで往復約40kmの道のりを自転車で行き、翌日はランで会社のグラウンドを走る。そんな日々を繰り返しています。世界選手権出場を決めた今年の日本選手権は印象深いです。それ以上に昨年静岡の大会で優勝したレースが印象に残っています。その時は、家族全員が応援に来てくれたので、とてもうれしく、いいところを見せることができました。いよいよ念願の世界選手権ですが、勝負にはこだわっていません。ヨーロ



職場の上司
錦織良治さん
（東別所町）



とにかくまじめで礼儀正しく、仕事もきびきびこなしてくれます。

世界選手権の間は、仕事のことは一切忘れて、全力でがんばってください。

ツパ勢はかなり強豪で、たぶん歯が立たないでしょうから。正直、世界が舞台とはいえ、日本人との戦いの方が気になりますね。
35歳という年齢は決して若くありませんが、まだまだ日本チャンピオンを目指してがんばります。同世代の人たちのためにも、まだやれるんだっていうところを見せたいです。だから、引退するつもりはまったくありません。何歳になってもわたしは現役選手です。

